

呑川中流部合流改善施設整備事業に関する計画説明会  
 (令和元年12月15日、12月17日開催) 質疑応答一覧

分類	No.	ご質問・ご意見	回答
令和元年 12月 15日	1	まさに呑川沿いの住民にとって待ち望んでいた施設です。この施設により住環境が改善されることを期待しています。	—
	2	何ミリ以上の降雨で呑川に放流されるのか。	概ね6ミリまでの降雨は貯留されます。
	3	ゲリラ豪雨等で呑川が氾濫しそうな時の水を貯水することに貢献するか。6ミリまでの降雨が貯留される分は浸水対策に寄与するのではないか。	吐口からの雨の降り始め累積6ミリまでの降雨を貯留する構造となっており、ゲリラ豪雨等の対策のための施設ではありません。浸水対策としての効果は低い施設です。
	4	呑川に放流される汚濁物量に対し、今回事業で改善するのはどの程度の割合か。	呑川の対象流域は、世田谷区37.7%、目黒区23.8%、そして今回の呑川合流改善対策事業として実施する大田区が38.5%となります。
	5	世田谷区や目黒区で呑川合流改善の対策は実施しているのか。	世田谷区や目黒区ではまだこのような対策は行っていません。まず、呑川の中流部を対象に事業を進めているところです。
	6	上流域で対策を実施しないと効果が出ないのではないのか。	まず中流部から事業を始め、今後上流域の対策を検討することとなります。
	7	合流管ではなく污水管と雨水管を分けること（分流式下水道）はできないのか。	呑川中流域は合流式下水道であり、分流式にしようとすると道路の下に污水管をもう一本入れる必要があります。それと比較すると、今回の合流改善事業の方が効率的に整備を行うことができます。
	8	東調布公園の下に浸水対策の貯留施設を作る計画が無かったか。	今回整備するのは、大雨の際に水を貯留する施設ではなく、河川の水質を良くするための施設です。 呑川合流改善事業では、東調布公園に大きな貯留施設を作る計画は有りません。

呑川中流部合流改善施設整備事業に関する計画説明会  
 (令和元年12月15日、12月17日開催) 質疑応答一覧

分類	No.	ご質問・ご意見	回答
令和元年12月15日	9	清掃作業の際に悪臭が発生するのではないのか。	通常時は施設から臭気が出ない構造とするため、悪臭が発生することはありません。メンテナンスの際、貯留管に貯まった土砂の清掃・搬出が必要なため、臭気が発生が全くない訳ではありません。
	10	下水道局事業だから、浸水対策を行わないのか。	浸水対策については、呑川の上流部で呑川増強幹線事業を実施しています。下水道局では浸水対策と合流改善の両方の対策を行っています。
	11	上流で大雨が降った場合に、呑川が氾濫することはないのか。	中原街道に中原幹線という呑川の水を多摩川に流す施設ができてから近年浸水被害は発生していませんが、大田区で配布しているハザードマップの日頃からの確認や、非常時には避難指示等に注意していただければと思います。
	12	中原幹線の台風時（R1台風19号時）の様子を知りたい。	中原幹線に繋がっている箇所にはカメラが設置されています。台風15号、19号の時にカメラを確認しましたが、正常に流れている状況であり、多摩川から逆流している状況はありませんでした。
	13	多摩川の水位上昇による、呑川への逆流の心配はないのか。	多摩川の水位もR1年台風19号で初めて堤防を越えるような水位になり、確実に呑川に逆流することはないとは言いきれないところもあります。多摩川を管理する国土交通省や関連する自治体と連携し、総合的な治水対策について検討を進めてまいります。
	14	呑川で発生するユスリカについて、今回整備により解決するのか。	合流改善事業により臭気やスカムの問題は改善されますが、ユスリカについては別途対策が必要となります。大田区では年に40回程度河床清掃を行っており、引き続き河床清掃や捕虫器の設置等の対策を進めていきます。
12月17日	1	空気抜き施設からの排気や貯留管の清掃時などに悪臭、害虫が発生すると思われるが対策はどう考えているのか。	空気抜き施設の詳細は今後検討をしていきます。決まりましたら、ご説明差し上げます。
	2	空気抜き対策について、他の貯留管でどのような対策をしているのか。	他の貯留施設では、空気が抜けるような人孔構造やパイプのようなものを公園内に建てている例もあります。

呑川中流部合流改善施設整備事業に関する計画説明会  
 (令和元年12月15日、12月17日開催) 質疑応答一覧

分類	No.	ご質問・ご意見	回答
令和元年 12月 17日	3	ずっと貯留しておくとも水が腐ってしまうと思われるが、貯留した水はどの程度の時間で返水できるのか。	基本的には2日間で排水します。返水先の下水道管に水位計を設置し、水位が下がったら速やかに自動排水できる構造とします。
	4	晴天時に返水を行うということは、長雨の場合は貯留しきったら、川に吐き出すのか。	降雨初期の汚れた下水を貯留します。貯留しきってしまうとそれ以上は貯留することはできないので、吐口から放流されます。
	5	下流側で集約して調整池等を設置した方が効率的ではないか。	川に放流される吐口の手前で取水する必要があり、それらの吐口から取水した水を集めるのに効率的なルートが今回のルートとなります。
	6	最終的な公園復旧の計画は決定しているのか。	下水道工事後の公園計画については、工事期間も長くなるため、事業の進捗、公園施設の老朽化も踏まえ、公園全体の再整備計画を立案する予定です。復旧形態については、今後区で実施予定の再整備計画の中で地域の皆様のご要望を受けながら検討し、決定していきたいと考えております。
	7	なぜ作業用地を屋外プールの箇所にしたのか。	東調布公園の施設の利用状況は、利用率の高い交通公園や稼働率が約70%の野球場、屋外プールは夏の2か月間の稼働となっています。水泳施設は通年営業の屋内プールも併設しており、工事期間中も通常営業予定です。それらを考慮し、作業用地として必要な面積を確保できる位置を下水道局と協議し検討を進めてきました。また、屋外プール自体も老朽化が進んでおり、再構築の計画も必要なことから作業用地をこの位置に決定しました。
	8	本事業を浸水対策のための施設へと転換する検討はしていないのか。	合流改善事業は河川の水質を改善する目的で順次進めている大切な事業です。呑川流域については、別途、上池台や呑川上流部でも浸水対策事業を現在進めています。
	9	台風時など、呑川の溢水が心配である。浸水対策を優先して取り組むべきではないか。	呑川流域については、別途、各種浸水対策事業を進めているところであり、浸水対策事業と同時に河川環境対策として本事業を次年度より進めていければと思います。

呑川中流部合流改善施設整備事業に関する計画説明会  
 (令和元年12月15日、12月17日開催) 質疑応答一覧

分類	No.	ご質問・ご意見	回答
令和元年 12月17日	10	雪谷地区周辺の浸水対策は実施しないのか。	この地域での浸水対策の計画は、50mm/h対応として既設管網を含めて整備していく計画はありますが、現時点で上池台地区で実施しているような浸水対策の管を入れる計画はありません。
	11	家屋調査について、「工事による被害が生じた」の程度を知りたい。	「玄関のコンクリートや建物内の壁にクラックが入った」というようなものを想定しています。
	12	家屋調査委について、「工事後の調査」はどの時期に実施するのか。	工事前の調査は工事着手前までに建物の写真撮影をし、工事後については通常工事完了の半年後に行います。
	13	雪谷文化センターのバス停移設はバス運行会社と協議をしているのか。	既存駐車場の出口付近にバス停を移設することをバス運行会社と協議しています。正式に確定しましたら事前に周知を行います。
	14	解体工事の手順を知りたい。また、工事車両の出入りや種類についても知りたい。	具体的な手順は、今後の工事業者の決定後に工事説明会で説明させていただきます。工事車両については、大型クレーンや土砂搬出入のためのダンプ、トンネルの材料を運ぶための車両、コンクリートミキサー車、たて穴を掘るための機械を運搬する大型車両が入る日もあります。